

飲料への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

11月に入り、冬の気配も日々増してきましたが、寒い日は熱い飲み物で体を芯から温めたいですね。そこで今回は、飲料への支出について家計調査結果からみてみましょう。

茶葉などは寒い時期に購入割合が高い

お茶やコーヒー類について、1世帯当たりの年間支出金額に対する月別割合をみると、「緑茶」、「紅茶」及び「コーヒー」など茶葉（固体）のものは、11～3月の寒い時期におおむね高くなる傾向があります。また、「緑茶」は、新茶の出回る5月に支出割合が最も高くなっています。一方、「茶飲料」や「コーヒー飲料」など液体のものは、茶葉（固体）の支出割合が低下する夏期に高くなっています（図1）。

炭酸飲料や乳飲料は4年間で約25%増加

次に、飲料の1人当たり支出金額指数の推移を、平成17年を100としてみると、ゼロ系炭酸飲料やノンアルコールのビールテイスト飲料などを含む「炭酸飲料」、カフェラテなどを含む「乳飲料」が特に増加しており、21年は17年に比べ約25%の増加となっています。また、「ミネラルウォーター」は、平成18年及び19年は大きく増加しましたが、20年及び21年は減少しています（図2）。

贈り物には名産品を選ぶ？

最後に、「茶類」及び「他の飲料^注」の1世帯当たり年間支出金額を都道府県庁所在市別にみると、「茶類」は静岡市、「他の飲料」は青森市が最も多くなっています。また、静岡市・青森市共に支出金額に占める贈答用の割合が最も高いことから、贈り物としての購入が支出金額の多さの一因であることがうかがえます（図3）。

注）茶類、コーヒー、ココア以外の飲料。果実・野菜ジュースや炭酸飲料などが含まれる。

図1 1世帯当たり年間支出金額に対する月別割合（平成19～21年平均）

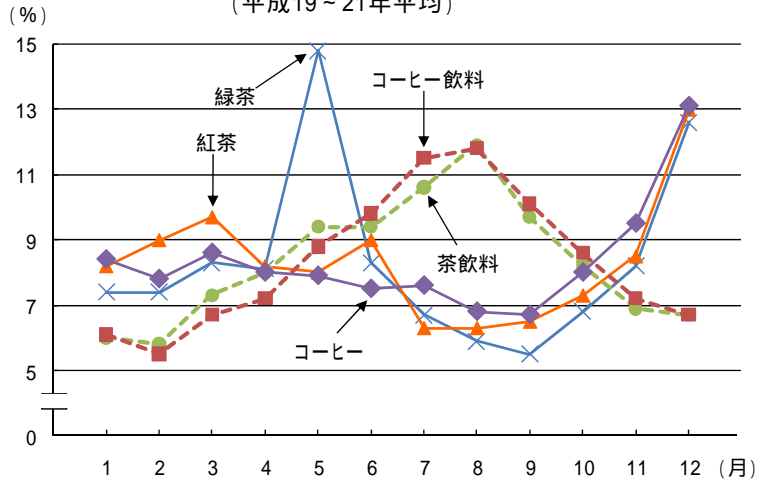


図2 飲料の1人当たり支出金額指数の推移（平成17年 = 100）

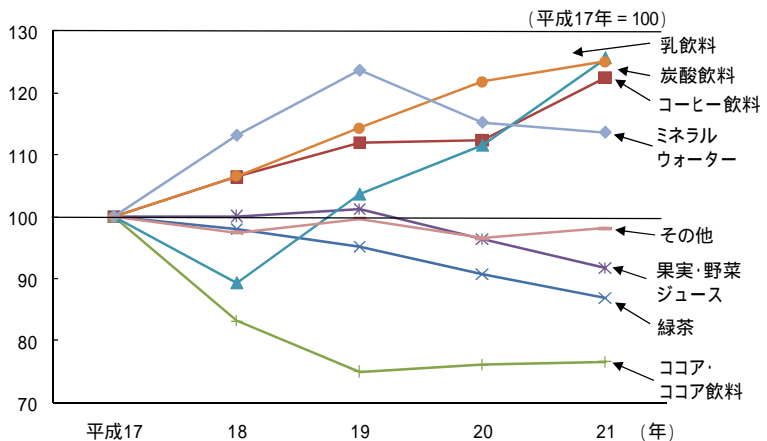


図3 「茶類」及び「他の飲料」の1世帯当たり年間支出金額と用途（平成19～21年平均）

